

磯子いそご地域と
親子交流会

活動の経過 平成 25 26 27 年度

※補助金交付年度は、
白抜き文字

わらじづくり

活動を始めたきっかけ

磯子いそご地域と親子交流会は、**親子のさまざまな体験をきっかけに、地域住民と交流し、地域ぐるみで子どもたちをあたたく見守る環境をつくりたい**という思いから、磯子地区連合町内会、青少年指導員、主任児童委員、子ども会連絡協議会、PTAなどが連携して、平成25年度から活動を始めました。

補助金交付時の活動

構成員

磯子地区連合町内会、磯子地区青少年指導員、磯子地区子ども会連絡協議会、地区主任児童委員、磯子小学校PTA、浜小学校PTA、山王台小学校 父母と教職員の会、地域協力者

主な活動

●地域で活躍するプロに学ぶ体験教室

- 地元建具店の方を講師に迎えた木工細工教室
- 地元和菓子屋さんを講師に迎えた和菓子づくり体験
- 地元食品サンプル会社の方を講師に迎えたマグネット制作 など

●和太鼓ワークショップと講師による実演

太鼓のたたき方やリズムの取り方などを、親子で教わり、実際に先生のリズムに合わせて叩き、最後には先生の和太鼓と篠笛奏者のコラボ演奏を鑑賞しました。

●磯子の昔ばなし紙芝居

磯子の昔ばなしに基づき作成したオリジナル紙芝居「せっけんはじめてものがたり」と「たくあんだいみょうじん」など、地域にまつわる作品を上演しました。

●わらじ作り体験

親子でビニール紐からわらじを編み上げました。

◀食品サンプルで作った
マグネットの作品例

活動の様子

●わらじ作り体験

10組近くの親子が山王台小学校の図書館に集まり、わらじづくりを体験しました。

お母さんたちに見守られながら、子どもたちは、自分の足のサイズに合わせて真剣にわらじを編んでいました。静かだった会場も、わらじの形ができ上がってくる頃には、子どもたちの興奮した声で賑やかに!

自分で編んだわらじを履きながら、誇らしいような、恥ずかしそうな、子どもたちの素敵な笑顔が印象的でした。

誰が一番最初に
できるかな?

サイズはどうか?



紙芝居

●磯子の昔ばなし紙芝居

わらじ作りの後は、スタッフによる磯子昔ばなしの紙芝居が上演されました。日本で初めて石けんを作った堤磯右衛門のお話です。磯子区で、日本最初の石けんが作られたことに、多くの参加者から驚きの声が上がりました。



うれしかったこと!

イベントに参加した小学生が、後日、講師となってくれた「地域のプロ」のお店に足を運んだ話をしてくれました。「これぞ地域との交流だな!」と、とてもうれしかったです。

イベント参加者が、磯子の昔ばなし紙芝居(日本で初めて石けんをつくった堤磯右衛門のお話)をきっかけに、関係資料がある開港資料館に足を運んでくれたことを聞いたときは、とてもうれしかったですね。

苦勞したことは?

3年目の現在は、簡単にイベントの内容を決められるようになりましたが、1・2年目は「何をやるか?」というところからのスタートでしたので、苦勞しました。当時の会長さんたちは、本当に大変だったと思います(途中委員の変更がありました)。

最初は「地域のプロに学ぶ。」をテーマに、木工づくりや和菓子づくりを地元のプロから学ぶイベントなどを実施していました。

さまざまな立場の人がスタッフとして連携することで、それぞれのつながりを活かした活動ができています!

普段は会議でしか会うことのない団体の皆さんと、1つのテーマを通じて、じっくり向き合えたことが良かったです。より関係が深まったと感じています。